
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2008年12月24日号

©2008年11月における中国の油糧・食油市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2008年11月における油糧・食油市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

1 油糧作物の播種面積、生産量とも増加

2008年は中央政府が油糧生産支援政策・措置を講じたことから、油糧作物の播種面積が大幅に増加し、生産量の増加により3年連続減産となることが回避される見通しとなった。

2 油糧輸入は増加、食用植物油輸入は減少

2008年1～10月の中国の油糧輸入量は、前年同期比25%増の3,186万トンとなった。うち輸入菜種は同7.6%増の82万トンであった。また、輸入食用植物油は同6%減の657万トンで、うち輸入パーム油は同19%減の430万トン、菜種油は同34%減の20万トンであった。

3 世界の油糧生産量は明らかに増加

国連食糧農業機関（FAO）の予測によると、2008/09年度の世界の油糧生産量は前年度比6.7%増の4.20億トンと見込まれ、うち大豆、菜種及びヒマワリ種子はそれぞれ7.9%増、12.5%増及び11.6%増、綿実は3.9%減とみられている。

4 国内油糧及び食用植物油価格は引き続き低水準で推移

2008年11月は、中央政府による菜種の臨時買上政策を受け、国内の油糧・食用植物油価

格は全体に上げ止まって大幅に下落する傾向を示したものの、下落の勢いは弱く、価格は引き続き低水準で推移した。湖北地区の四級菜種油の工場出荷価格は1トン当たり7,200～7,600円で、前月よりやや低く、前年同月比では30%安となった。山東地区の二級落花生仁（種子の中の食べられる部分。殻むき落花生）の卸売価格は同5,600円で前月並み、前年同月比37%安となった。同地区の四級落花生油は同11,600円で、前月比3.3%安・前年同月比36%安となった。天津港におけるパーム油（融点24℃）のオファー価格は同4,500円で、前月比4.3%安・前年同月比50%安であった。

5 国際市場における油糧・食用植物油価格はなお下落の趨勢

世界的な経済不況の影響で、2008年11月の国際油糧・食用植物油価格は全体としてさらに下落の趨勢を示した。同月のカナダの菜種のCNF価格（C&F価格、1990年の国際商業用語改正後はCFR価格：運賃込み価格＝FOB（本船渡し）価格＋運賃。以下同じ）は1トン当たり403ドルで、前月比6.4%安・前年同月比30.1%安となった。南米の未精製大豆油のCNF価格は同790ドルで、前月比9.7%安・前年同月比27%安となった。マレーシアのパーム油（融点24℃）の離岸価格（本船渡し（FOB）価格）は同520ドルで、前月比11.9%安・前年同月比44.9%安となった。

同月のカナダ産菜種の通関渡し価格（Duty Paid: CIF＋関税等）は1トン当たり3,500元前後で、国内の菜種の工場渡し価格（同4,400元）に比べ同900元安く、近年では初めて内外価格差が逆転した。米国メキシコ湾における大豆油FOB価格は同722.8ドルであり、これを同4,935元と換算すると、山東地区の国産大豆油価格に比べ同2,055元安く、通関渡し価格は同6,850円で、同140元安かった。